

CO₂排出量を減らす為に

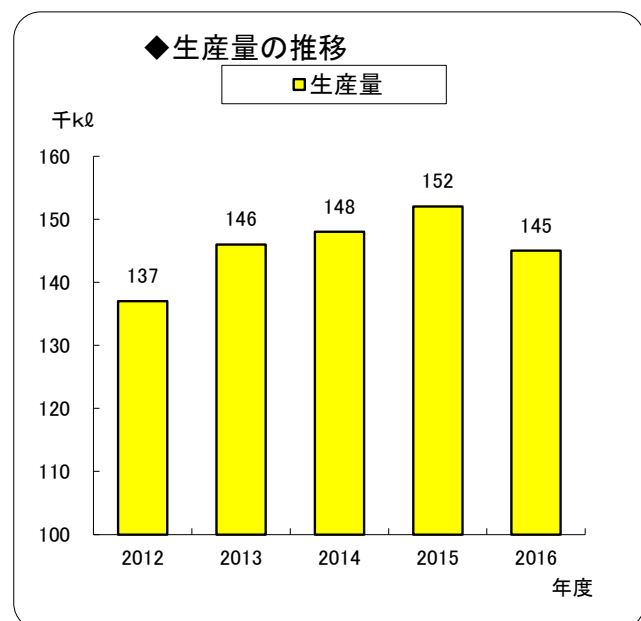
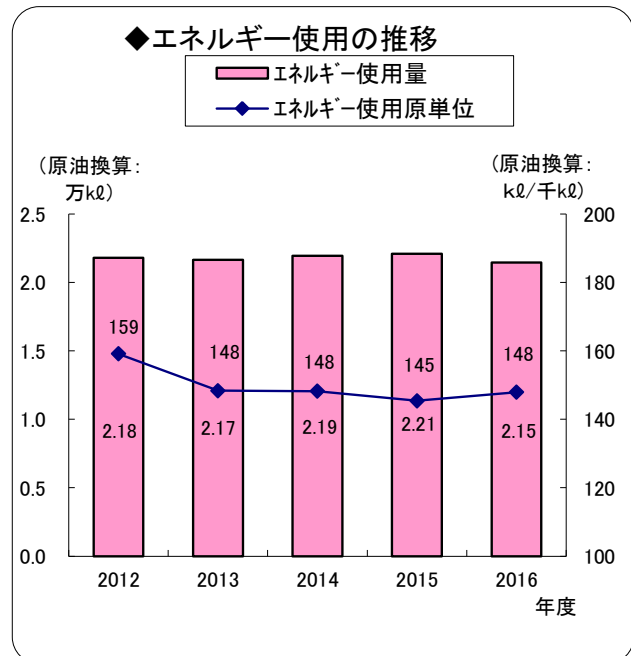
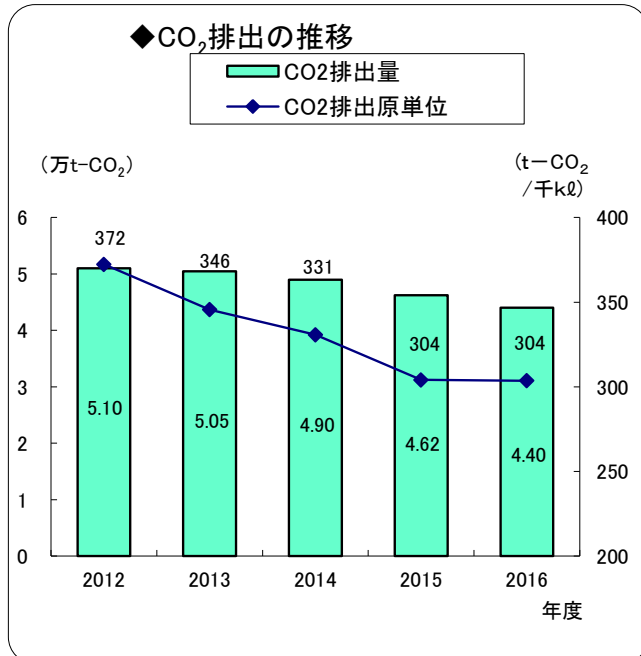
CO₂の削減

当社は、2000年よりISO14001への取り組みに合わせ省エネルギー対策に取り組んできました。当初は電力や蒸気の使用量削減という形で取り組んでいましたが、温暖化対策が求められる中、CO₂削減というテーマに2002年度より変更しました。

ISO14001での取り組みは、アイデアを各部署で出しかつて無駄な電力、蒸気、LPGの使用を削減するという形で得られた成果です。

2014年に本社工場及び長船工場に都市ガスボイラーを、2016年に関東工場に太陽光発電を導入し、CO₂排出量を抑制しました。

2016年度は生産量が減少しましたが、原単位あたりのCO₂排出量は前年の水準をキープしました。



注)

CO₂排出原単位

= 生産量1000klあたりのCO₂排出量

= CO₂排出量(万t-CO₂) ÷ 生産量(千kl)

エネルギー使用原単位

= 生産量1000klあたりのエネルギー使用量

= エネルギー使用量(原油換算：万kl) ÷ 生産量(千kl)

太陽光発電及び特高受電の導入(関東工場)

2016年3月からCO₂を排出しないクリーンエネルギーの太陽光発電を稼働させています。

発電出力は500kWとなり、2016年度の発電実績は年間で733MWとなります。



太陽光発電

2015年3月より特別高圧で受電を開始しました。特高化に伴い、ピークカット用として運転していたディーゼル発電機を停止することで、年間104.3tのCO₂排出量削減を見込んでいます。



特高受電設備

ガスボイラー装置の導入(本社工場・長船工場)

本社工場及び長船工場では、石油類(A重油)よりもCO₂の排出量の少ない都市ガスを採用したボイラー設備に更新し、本社工場は2014年9月より、長船工場は2014年11月より稼働しています。この設備導入により、2工場合計で年間約2,700tのCO₂排出量が削減される見込みです。この設備導入にあたり、エネルギー使用合理化事業者支援補助金を利用しました。



ガスボイラー(本社)



ガスボイラー(長船)